

令和6年度 特別展 「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」の開催

小林 まさ代

当館では、令和7年3月8日（土）～6月15日（日）の期間、特別展「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」を開催します。令和4年に株式会社ニッチツ秩父事業所より寄贈を受けた、143点の標本をすべて公開します。本稿では、本標本を所蔵していたニッチツ秩父事業所標本室の成り立ちと、本標本の概要を解説します。

1. 株式会社ニッチツ秩父事業所 標本室

埼玉県の北西にある国内有数の鉄山“秩父鉱山”は、その発端を江戸時代に遡ることができる歴史ある鉱山です。かの平賀源内も開発にかかわっていたことが知られています（本年放映されているNHK大河ドラマ「べらぼう」でも、そのエピソードが紹介されました）。本格的な開発が始まったのは大正時代以降、特に昭和12年に旧日室鉱業株式会社（現：株式会社ニッチツ）が秩父鉱山の鉱床のひとつである六助坑を買収して以降、積極的な開発が進められました。出鉱のピークは昭和40年代で、日本有数の鉄鉱石の産出がありましたが、鉱石中の硫黄含有量が多く選鉱・精錬にコストがかかること、輸入鉱石との価格競争などから、昭和53年に金属鉱石の出荷を停止します。その後は非金属鉱石（珪石及び石灰石）の採掘・出荷に切り替えて鉱山経営を続けていましたが、令和4年9月の石灰石事業の終了をもって、現在は稼行を停止しています。

秩父鉱山の特徴は、主な採掘対象である鉄のほかにも、銅、亜鉛、金、マンガ、硫化鉄などの多様な金属種が産出したことです。秩父鉱山は鉱床学的には、石灰岩にマグマが接触、反応して形成される“スカルン鉱床”に分類されます。同じくスカルン鉱床とされる代表的な鉱山に、釜石鉱山（宮城県）や神岡鉱山（岐阜県）がありますが、いずれも秩父鉱山ほど多様な金属や鉱物の産出は知られてはいません。

秩父鉱山の鉱床調査は、主に昭和20年代以降、

鉱山の開発と平行して進められてきました。調査はニッチツの探査課を中心に行われていたことが、鉱床学を専門とする各地の研究者の受入れも行っていました。特に東京教育大学の宮沢俊弥教授や山口大学の山口高教授は、秩父鉱山の鉱床研究に深くかかわっていました。大学教授や学生の受入れを行う過程で、調査の事前に秩父鉱山の鉱床・鉱石の概要を理解するための標本室のニーズがあったのでしょう、鉱山事務所の応接室の奥の一角に、秩父鉱山の代表的な鉱石を一同に集めた標本室が整備されたようです。

実のところ、標本室の具体的な設立過程や設置年代が分かる文献等は残っていません。ただ、事務所関係者の証言や所蔵されていた標本の産出年代等を考慮すると、標本室の設立は昭和30年代前半ということになりそうです。設立後も標本の多少の増減はあったようですが、基本的には昭和30年代に秩父鉱山で採集された鉱石が、標本の大部分を占めています。

2. 希代の鉱物標本群

秩父鉱山の標本室に収蔵された標本は、秩父鉱山で採掘された主要な金属・非金属鉱石のほか、粉碎して金属精鉱として出荷するには惜しい美結晶鉱物標本などが含まれます。鉱山の稼行時に見つかった選りすぐりの標本のため、標本の形が良く、現在ではどうも採集不可能な巨大な標本が多数含まれていることが特徴です。以下に、特筆すべき鉱物をいくつかご紹介します。

【自然金】

秩父鉱山では、“糸金”と呼ばれるひも状の自然金が、閃亜鉛鉱と共に産出することが知られています。このような産状は世界的にも類を見ないものです。（写真1）

【車骨鉱・毛鉱】

“車骨”とは歯車の意味で、結晶が歯車のような形をしていることから名づけられています。また毛鉱は、毛状の形をしています。金属鉱山では

しばしば産出が知られる鉱物ですが、秩父鉱山では肉眼サイズの大きくて形のよい結晶が産出することで有名です。鉱石としてよりも鉱物標本としての価値が高いものです。(写真2・3)

【閃亜鉛鉱・黄銅鉱】

閃亜鉛鉱は亜鉛、黄銅鉱は銅の鉱石です。亜鉛と銅はいずれも販売価格が高く、鉱山の経営を支えた鉱石です。美しい自形結晶が多数収められています。(写真4)

【磁鉄鉱・褐鉄鉱】

いずれも鉄の鉱石で、鉱山の主力鉱石です。100kgを超える磁鉄鉱からなる鉄鉱石も展示されていました。褐鉄鉱については、鍾乳状などの形状が様々な鉱石が展示されていました。(写真5・6)

という関係者の意向を反映したものです。

当館では、寄贈を受けた標本についてクリーニング作業や登録作業を進め、この春ついに全点を公開する特別展を開催する運びとなりました。標本室は、鉱山関係者や鉱山の来客以外には非公開であったため、これまで標本が一般にお披露目されることはありませんでした。これを機に、多くの方に秩父鉱山の鉱床の特異性や、鉱物産地としての魅力を知っていただきたいと考えております。また、標本全点の写真と解説を記した展示解説書も発行しました。秩父鉱山への理解に一助になれば幸いです。

最後に、当館の活動に理解を示し、本標本の寄贈に尽力いただいた(株)ニッチツ旧秩父事業所の関係者の皆様、本特別展の開催に向けて御協力をいただいた方々に、厚く御礼申し上げます。

(こばやし まさよ・主任学芸員)

3. 特別展の実施

株式会社ニッチツ秩父事業所の標本室に収蔵されていたこれらの標本は、秩父鉱山の石灰石事業の終了を機に、埼玉県立自然の博物館へと寄贈されました。これは、「秩父の宝は地元に残したい」

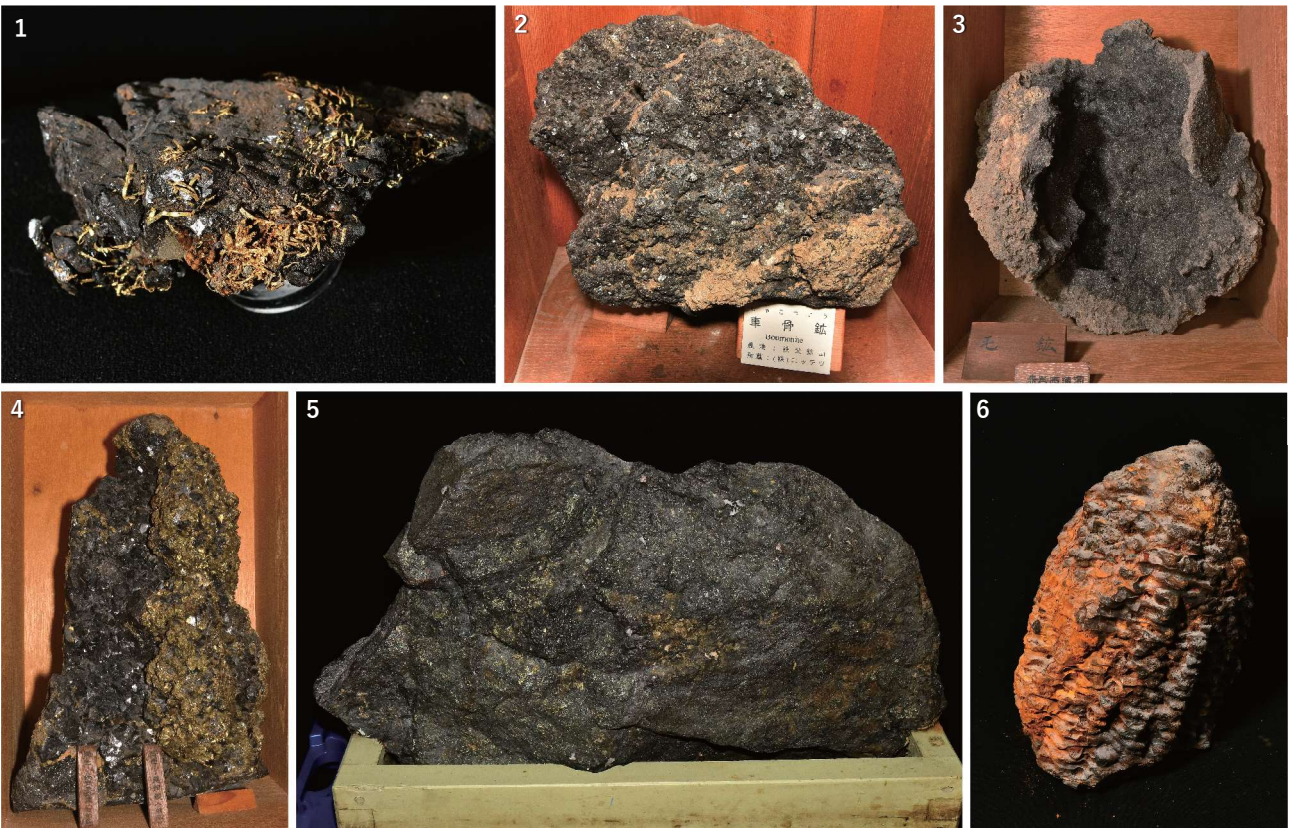


写真 1. 自然金(糸金) [大黒鉱床] 2. 車骨鉱 [大黒鉱床] 3. 毛鉱 [赤岩西鉱床] 4. 閃亜鉛鉱・黄銅鉱
5. 磁鉄鉱 6. 褐鉄鉱